

病 院 だ よ り

「治験」をご存知ですか？

伊東 瑞穂

肺癌について

古泉 貴久

医療機器管理室誕生！

窪田 宗雄

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

「治験」をご存知ですか？

現在私たちが病気やけがの治療などに使っているくすりは数多くありますが、より効き目が強いくすりや副作用の少ないくすり、まだ開発されていない分野のくすりが求められ研究開発の努力が続けられています。昨今話題のインフルエンザのくすりについても現在3種類（のみぐすり、吸入薬、注射薬）が国内で開発中です。

研究開発された「くすりの候補」はいろいろな試験をくりかえして評価されますが、最終段階では医療機関において患者さんへの効果（有効性）や副作用の程度（安全性）を確認しなければなりません。



「治験」とはこの「くすりの候補」を国（厚生労働省）から認めてもらうために人で行う臨床試験のことをいいます。現在使用されているくすりも過去に行われた多くの患者さんのボランティアによる「治験」の成果によるものです。

治験は厚生労働省により定められた厳格なルール「医薬品の臨床試験の実施の基準」（GCP: Good Clinical Practice）に従って、患者さんの人権と安全性を最優先に、科学的な方法で適正に行われなければなりません。また、治験実施の依頼を受けた医療機関では治験審査委員会で治験計画の安全性・科学性・倫理性などさまざまな面から審査を行います。委員には医師などの他医療を専門としない者と病院と利害関係がない者が必ず参加し倫理面に配慮しています。

治験への参加は通常医師が患者さんにお話ししたり、患者さんご自身が募集ポスターをご覧になって応募されるケースの他、最近では新聞紙上やインターネットでの募集のお知らせで関心をもたれる方も増えているようです。

*2009年4月1日以降、治験審査委員会に関する規則や委員名簿、会議記録の概要を公表することが求められ、当院でもホームページに掲載しております。

肺癌について

日本における死因の第一位は「がん」です。1998年より部位別がん死亡率1位は肺癌となりました。年齢では45～70歳に最も多くみられます。喫煙の量や期間に比例して、肺癌を発症するリスクは高まります。男性の肺癌の約90%、女性の約80%は喫煙が原因とされており、女性の喫煙者の増加により、以前より肺癌にかかる女性が増えています。

咳や痰、血痰やその他の自覚症状で発見される際には症状が出てくるまでに時間が経過しており進行例が多くなります。一方、検診や他疾患治療中に発見される肺癌は自覚症状による発見の場合に比べ早期の肺癌を多く発見できます。近年、CT検診普及やCTの精度の向上によりレントゲンでは確認できない早期の肺癌を見つけられるようになりました。

肺癌の治療法としましては手術治療、抗がん剤治療、放射線治療があります。早期の肺癌は手術治療が適応となり進行肺癌は抗がん剤や放射線を加えた治療をおこないます。手術治療においては近年、胸腔鏡下手術の発達により低侵襲手術が可能となりました。



肺癌の予防方法、発見から診断に至るまでの検査、治療方法についてできる限りわかりやすく説明したいと思います。

呼吸器科医長 古泉 貴久

ご案内

このテーマは

平成21年12月11日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

医療機器管理室誕生！

今年の6月1日より臨床工学技士（ME技士）をメインスタッフとして4名（ME技士3名）にて「医療機器管理室」が誕生しました。

業務内容は、「院内の医療機器による医療行為・安全性・信頼性の確保・維持することを目的」として、医療安全管理室と連携して進めていくものであります。

病院内の医療機器は多種多様で増えています。この医療機器が正常に動かないと皆様の診療が適正に受けられないばかりか、場合によっては重い障害を受けることとなってしまいます。このようなことがないように、医療機器が常に適正に動くために保守管理し正しく動くことが必要とされます。しかし、いくら保守管理をしていても器械は人間の体と同じように時には故障する場合があります。故障をしたら外部業者に依頼することなく、いかに早く修理をし、診療の妨げにならないことが肝心です。しかし、時として精密機器の修理のため皆様には予約変更等のご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが最大限努力していきます。

少々専門的になりますが、この医療機器や医療技術の安全性、信頼性、便益性を維持、向上するためME技士として、医療機器管理室として次のような事を考え、実行しようとしています。

- 1) 医療現場にME技術や手法を導入して、医療を向上させること。
- 2) ME機器やシステムを評価してその購入にアドバイスし、効率的かつ安全な運用をはかるため保守・点検・維持（メンテナンス）あるいはその廃棄を受け持つこと。
- 3) 機器やシステムに関する医療の現場における教育、訓練を受け持つこと。
- 4) 機器の安全性と信頼性を向上させるために、その規格化、基準化、指針の作成などに関与すること。
- 5) 医療を発展させるための新しい機器や、技術の研究・開発に参画すること。

ME技術の発展は医療の発展に必要不可欠と考えます。そのために日常性に溺れることなく、絶えず仕事上の問題意識を持って対処することが必要と思います。スタッフ一同院内の隅々までME技術サービスが行き届くように、また医療機器管理室として機能するよう頑張ります。

医療機器管理室長 窪田 宗雄